

第6回本明川ダム建設事業 環境影響評価技術検討委員会 議事要旨

日 時：平成21年3月19日（木）13:30～17:00
場 所：L&L ホテルセンリュウ 2F 仙竜の間（諫早市）

主な意見

○ 前回の議事要旨について

- ・ ゴキズル→ゴキヅルに修正すること。

○ 動物（河川域）、生態系（河川域）についての予測、保全措置の検討結果

【動物】

- ・ 本委員会が予測・評価を行っているわけではなく、事業者が予測・評価を行い、委員に指導・助言を得るものであるため内容を修正すること。
- ・ 流況の変化の予測結果については、動物の評価であることがわかるように記載すること。
- ・ 土砂供給の変化において、湯野尾川合流後～鉄道橋に生息する動物への影響の表現については、「概ね維持される」という表現を修正すること。
- ・ 魚類の環境保全措置の効果については、「可能性が」を「可能性は」に修正すること。

【生態系】

- ・ 魚の代表種としては、タカハヤよりオイカワの方がよい。それに伴い底生動物も変更すること。
- ・ カワセミの生態で採食については、本明川で調査した結果を記載すること。
- ・ サシバの各つがいには寿命があると思うので、本明川周辺に生息する個体群としては、影響ないとするべき。
- ・ サーチャージという言葉は洪水時最高水位とすること。
- ・ 魚類については、ブルーギル、ブラックバス等の外来種が放流され、生態系の攪乱を起こすため、立て札を付けるなどの対策が必要。
- ・ 凡例の意味がわかりづらい、堆砂がどのように予測されたのかの根拠がわかりにくい。
- ・ 事後調査について、「実施する条件ではないが」と文章を修正すること。

○ 前回の指摘事項について

【水質】

- ・ 水質の予測では、平水時と出水時の評価が重要となってくるが、L-Q式は幅があり平均的な予測であり、算術として課題は残っているためしっかりと条件を提示すること。

【全体】

- ・ 本明川の事業の必要性、今回のアセスについては、住民への説明や情報発信を十分に実施すること。